

関係部署・市町意見への対応状況

参考資料3

章	頁	該当箇所	修正・追加・意見	理由・根拠等	対応
全体	—		・「不明水」に関する表記について、「不明水（雨天時浸入水）」と表記されているところと、されていないところがある。統一するか、初めに注釈を入れる等の方がよいと考える。	・雨天時浸入水と表記されているところと、されていないところの違いが不明瞭であるため。	不明水全般を指す場合と雨天時浸入水を指す場合の使い分け。 5.4(4)の施策の不明水対策は、雨天時浸入水を指すため不明水（雨天時浸入水）と表記
			数字のフォント、全角・半角の不統一	統一すべき	表記修正
			出典の表記字体（明朝体・ゴシック体）が不統一	〃	表記修正
			出典の表記内容に「P●」まで必	頁の表記は不要	表記修正
		SDGsのゴール・ターゲットの達成への貢献について明記いただきたい。（例えば、第4章 第2期中期ビジョンの体系、第5章 施策の方向性などにSDGsのゴール・ターゲットとの関連を記載する。） また、関連するゴールのアイコンを掲載いただきたい。	本年4月に「滋賀県庁SDGsアクション（Ver.1）」を策定しており、SDGsのゴール・ターゲットを意識した部門別計画を策定することとしているため。（本年9月14日のSDGsアクションの実践についての通知も参照いただきたい。）	別紙SDGs対応表を作成 参考資料として添付するか本編に組み込むかは要検討	
はじめに	0-1	19行目 平成17（2005）年に策定し	はじめにでは、和暦+西暦 本文では、1-1頁は西暦+和暦 3-1頁は和暦+西暦 混同しているので、表記方法を統一する。	表記方法の統一	表記修正
第1章	1-1	下水道普及率は平成30年度末時点で90.2%と全国7位	下水道普及率は令和元年度末時点で91.1%と全国7位	最新の状況を記載すべきであるため。	表記修正
	1-3	14行目 阪神大震災時には	阪神・淡路大震災時には	略称でなく、正式名称表示で	表記修正
	1-3	16行目 汚物の山ができた。	汚物が山積した。	表記の修正	表記修正
	1-5	図1-3を令和元年度まで表示	統計情報の更新	最新の状況を記載すべきであるため。	「滋賀県の下水道事業」最新版のため更新不可
	1-5	5行目 共用開始から51年	供用開始から51年間、	誤字	表記修正
	1-6	(2) 汚水処理（高度処理の実	9行目「表1-1」→「図1-4」		表1-1であっている。
	1-6	(2) 汚水処理（高度処理の実施）	9行目「琵琶湖に流入する負荷に対して～」の部分について、ここでの除去率の意味と計算がよくわ		注釈追記
	1-6	(2) 汚水処理（高度処理の実	11行目「表1-2」→「表1-1」		表記修正
	1-6	(2) 汚水処理（高度処理の実施）	図1-4琵琶湖内に記載のT-Pは633だが次頁のT-Pは634になっている		図差し替え

章	頁	該当箇所	修正・追加・意見	理由・根拠等	対応
	1-8	表1-1	東北部のBOD除去率99.6%以上と記載できないか	N. D. は0.5未満なので99.6%以上除去できている	表記修正
	1-9	(3) 汚泥処理	4行目「H31年度：東北部」→「R1年度：東北部」		表記修正
	1-9	2行目 H16～H20年度には	平成16～20年度には	略称でなく、正式名称表示で	表記修正
	1-9	18行目 令和4年度末には	令和4年度末には	数字は半角でされている	表記修正
	1-10	27行目 供用開始から10年以	供用開始から10年以上	〃	表記修正
第2章					
第3章	3-2	3行目	第1中期ビジョン⇒第1期中期ビジョン	「期」が抜けているように思う。	表記修正
	3-4	2行目	〃	〃	表記修正
第4章	—	第4章全般 数字のフォント、全半角が不統一	他の章に合わせる（統一する）		表記修正
	4-1	12行目 国交省の新下水道ビジョンや	国土交通省の新下水道ビジョンや	略称でなく、正式名称表示で	表記修正
	4-5	◇みんなで	「下流域の府県の人たち」を含めた表現になるように検討いただきたい。	琵琶湖の恩恵を受けている下流域の他府県の人たちにも意識を持っていただく必要があると感じるた	P5-60にて啓発を通じて、下流域の府県の人たちへ意識付けをしていきたい。
	4-6	表中 自然災害への対処 選定理由欄	「新型コロナ」の削除	自然災害とは異なるため。	「自然」の削除。
第5章	5-3	「5.1.3 施策の方向性」の(1)	「また、農業・水産部局においても、環境こだわり農業を推進している」を削除	上2行とつながっていない。また、環境こだわり農産物の実施技術に「地域の未利用資源の有効利用」があるが、下水道資源を中心としているわけではない。	県の背景に移行
	5-4	2行目 答申された。	答申された。	表記の修正（4行目を合わせ	表記修正
	5-4	4行目 答申がなされたところ	〃	表記の修正	表記修正
	5-4	7行目 農作物の作成・消費の	農作物の 生産（栽培？）・消費	表記の修正	表記修正
	5-4	「農作物の作成・消費の地域循環を推進する」	「農作物の生産・消費の地域循環を検討・推進する」に修正	前回のビジョンでは「検討・推進する」となっていたが、「検討」は終了したのか。終了したならどうという結果だったのか。	表記修正
	5-8	(3) 未利用地の有効活用の検討	6行目東北部の公園施設は未利用地ではないのでは？		削除
	5-8	11～12行目 数字のフォントが不統一	他の章に合わせる（統一する）		表記修正
	5-11	図5-13 出典表記が2箇所	表記をまとめるか、正しい方を表記する		出典を新下水道ビジョンに統一
	5-11		「しがCOOL CHOISE」→「しがCOOL CHOICE」へ修正	正しい表記へ修正	表記修正
	5-14	14行目 平成31年度に	平成31（令和元）年度に		表記修正

章	頁	該当箇所	修正・追加・意見	理由・根拠等	対応
	5-19	湖西北幹線35mの管更生の実施 (P5-19)	具体的な幹線名や延長距離は削除してください。	単独費で対応すべき案件であることが判明したため。修繕で対応する可能性もある。(補助事業として管更生工事できない)	削除
	5-19	最下段センテンス「マンホール蓋について……」	「……交換を行っている市町を『参考に』……」に変更すべき。	本稿は「県」のビジョンを示すものと考えられるが、当該箇所の表現は市町の計画も謳っているように感じられるため。	「県」、「市町」の方向性を示したものであり、市町の現状を記載した
	5-20	目標耐用年数 老朽度	目標耐用年数を標準耐用年数の2倍とする理由老朽度の内容とリスク優先度との整合を方向性について説明が必要と思われる。	表5-2内に標準耐用年数2倍とあるが根拠が不明 老朽度とリスク優先度の説明が不足している。	備考欄削除
第5章	5-23	5.4 自然災害への対処	表の「国の背景」「県の背景」については、後述されていることから不要ではないかと考える。	5.4.1及び5.4.2で再掲されているため。(5.4.2「滋賀県の背景」においては全て同じ)	構成として削除不要 表内「国の背景」の表記簡略化
	5-25	4行目の◆大雨時には県と市町の情報連絡要綱を定め、	◆大雨時の県と市町の情報連絡要綱を定め、	誤字	表記修正
	5-27	(3)浸水を想定した対策の構築、2つ目の◆安全度マップ等により	◆「地先の安全度マップ」等に訂正	浸水リスク図の名称を正確に記載	表記修正
	5-27	22行目 全国好事例の県・市町間にて情報共有を行う。	県・市町間にて全国好事例の情報共有を行う。		表記修正
	5-30	5.4自然災害への対応5.4.3(4)不明水(雨天時侵入水)を想定した対策の構築 【施策の方向性】 ◆モデル地区調査の結果を踏まえて、各市町が参考と出来る技術資料を作成し、対策推進を加速させる。	「◆モデル地区調査の結果を踏まえて、各市町が参考と出来る技術資料を作成し、対策推進を加速させる。」削除	【施策の方向性】の一段目において、方向性は示されている。また三段目部分は具体的に決定された事項ではないため不要。	三段目は、一段目のより具体的な内容を記載したものであり、県として実施していきたいことを記載した。
	5-35	14～15行目 下水道計画区域内にある農業集落排水を順次公共下水道に接続していく。	下水道計画区域内にある農業集落排水事業地は各市町の計画に応じて公共下水道に接続されるよう、各市町に要請していく。	農集排は各市町で事業実施しており、計画年次に基づき順次接続切替するので、各市町の意見も尊重し実施していただきたい。	表記修正
	5-35	(4) 汚水処理施設整備構想に～	及び→および		表記修正
	5-35	5.5.3(4) 汚水処理施設整備構想に基づいた下水道の普及及び接続率の向上	【滋賀県の現状】において、未普及地が存在している旨記載すべき。	【施策の方向性】に整備を進める旨が記載されているが、何に対して整備を進めるのか読み取れない。現状に未普及に関する記載があれば、これに対し、整備を進めると理解はできる。	追記

章	頁	該当箇所	修正・追加・意見	理由・根拠等	対応
	5-39	草津市 汚水処理原価 116円/m3 経費回収率114%	各市町の経営指標について、出典資料を総務省経営分析資料や各市町の決算書などの数値に改めていただきたい。(データについては、直近のものを使用いただきたい。)	出典の下水道統計における数値と、本市決算書との数値差が大きく(本市決算書では、汚水処理原価は●円/m3、経費回収率●%である)、経費回収率が高いものと誤解を与えかねないため。	
	5-42	国の背景 (1)下水道施設のストック量増加に対し、下水道担当職員は減少している。 (2)維持管理担当職員が減少している。特に専門性の高い分野の職員数の減少幅が大きい。 (3)下水道職員の高齢者の割合が増加している。特に維持管理担当職員の高齢者の割合が多い。	(1)下水道施設のストック量増加に対し、下水道担当職員数は減少している。 (2)特に、維持管理担当職員数が減少しており、特に専門性の高い分野の職員数の減少幅が大きい。 (3)下水道担当職員の高齢化が進行しており、特に維持管理担当職員の高年齢割合が高い。	高齢者とする、65歳以上を指す。その他文言修正。	表記修正
	5-42 ～ 5-43	図5-40～42	出展データが古く、指標としては不適切ではないか。また、県の指標(図5-43)と職員分類が異なるので、比較しづらい。		国の背景として新下水道ビジョンから引用している。文章ともリンクしているため残した。
	5-44	◆先人会にて OB 職員による技術継承を行っている。今後は広域的な人材の育成や職場内の教育など、技術力の維持・向上をはかる仕組みづくりが必要 ◆先人会や勉強会といった… ◆各職員が各職員に…下水道職員の技術力…	◆下水道先人会議にて OB 職員による技術継承を行っている。今後は広域的な人材の育成や職場内の教育など、技術力の維持・向上を図る仕組みづくりが必要である。 ◆下水道先人会議や勉強会といった… ◆職員がお互いに…下水道担当職員の技術力…	正式名称を使用してはどうか。その他文言修正。	表記修正
	5-48	20行目 高島市の排出のし尿	高島市から排出されるし尿		表記修正
	5-48	(2) 広域化・共同化の推進	高島MICSの写真や処理フローを入れられないか？		資料追加
	5-59 ～ 5-60	施策の方向性	浄化センターでの施設見学、研修機会を積極的に行っていただける表現を加えていただきたい。	市民の意識付けのために有効であるため。(市民からも希望する声がある)	表記修正
第6章	6-2	(6) 住民の役割	「住民も共に、これからの下水道を作り上げていく」という表現ができないか検討いただきたい。	使用者としての視点だけでなく、●の気持ちを持っていただきたいため。	表記修正
	6-3	11～12行目 把握することが可	把握することが可能となる。		表記修正